



校長会



No.55

三重県小中学校長会 広報 第55号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり



「対話と学び合い」を大切に

地域全体が学校

亀山市立川崎小学校

校長 西口 昌毅

本校は平成三十一年に念願の校舎改築を終え、市内で最も新しい校舎の学校となりました。地域活動の拠点となる「ふれあい活動室」や、校舎の中心に位置する多目的ホールなど、地域連携を念頭に置き、子どもたちがいきいき、のびのびと生活できる様々なアイデアが詰まった校舎です。

新校長として四月に赴任した私は、この素晴らしい校舎を前に、そのすぐれた機能や環境を十分に生かした教育活動の展開を心に誓いました。教職員には、「対話と学び合い」を大切にしていくことも示しました。

一方で、新型コロナウイルスの影響は続き、臨時休業や学校再開に伴う急な変更の連続など、いつも通りにはいかない状況がありました。このような中で、そういう時だからこそ、普段見えにくい学校の底力を垣間見た気がしました。それは、教職員が実に柔軟に対応していたことです。打合せ等での議論はもちろんのこと、ホワイトボードを職員室に持ち込み、気付きやアイデア、知りたい情報や質問、困りごとなど、付箋やプリントなどがいっぱい貼られ、皆で資料提供や情報共有する姿。まさに、対話と学び合いの一端を感じました。

さらに、本校は、コミュニティ・スクールとして地域の方々や保護者の参画・協力を得ています。臨時休業中も、子どもたちが先々の学習で困らぬようにと、畑や花壇の世話、苗や種まき準備等に協力いただきました。

新しい校舎と、ひたむきな教職員、そして、地域や保護者の方々の支えに感謝しつつ、これからも対話を大切にし、つながりの中でともに学び合える関係づくりと、地域全体で子どもを育む学校づくりに力を尽くそうと考えています。

会長挨拶

未曾有の事態を乗り越えて



三重県小中学校長会

会長 中瀬 鉄夫

今年初めに端を発した新型コロナウイルスは、一時的ピークは過ぎたものの依然として脅威は残っており、我々生活者にとって、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」が、日常生活のスタンダードとなりつつあります。この感染症の拡大は、戦後最大の危機であり、国民生活や経済、また企業活動や雇用に深刻な影響を及ぼしています。

教育も例外ではありません。県内では全ての小中学校、県立学校、特別支援学校等が今年の三月、臨時休校措置を余儀なくされました。卒業式や修了式は、三密（密閉・密集・密接）を避けて規模を縮小して実施した学校が多かったようです。新年度になり、四月に入學式を行うことができましたが、その後、四月中旬より五月中旬まで

休校期間が延長されました。

これに伴い、学力保障や心のケア等が問題になっていきます。オンラインによる授業や学活を行っている学校もありますが、家庭環境や地域による差異が指摘されています。さらに、今回のことで、患者に対する差別など様々な問題が噴出してきているため、正しい判断力を持って行動することが求められています。私たちにできることは、これらの課題をしっかりと捉え、子どもたちのことを第一義的に見据えた学校運営を粛々と行うことが大切になってきます。

また、先の理由から、これを機に「九月入学制」を求める声が始まりましたが、このことは社会全体に大きな影響を及ぼし、また教育現場にも大きな混乱を及ぼすことは明白であることから、拙

速な判断は避け、関係団体等と充分協議し、慎重に対応していかねばなりません。

このような混乱の中ではありますが、本年度、小学校（中学校は来年度）では新しい学習指導要領による学びが始まりました。そこには、これからの社会が予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え判断して行動し、明るい未来をともに創っていききたいという願いが込められています。この「新しい学び」とは、興味や関心をもつて主体的・積極的に考え学ぶことや、「何を理解しているのか」だけではなく、「それをどのように使うのか」「どのように社会と関わり、よりよい人生を送るのか」という視点を重視しながら、確かな学力、豊かな心、健やかな身体を自分自身で習得していくことです。教師の役割は、それをサポートしていくこと、つまり、「子どもに身に付けさせる」のではなくて「子どもが身に付ける」ことを支援していくことが重要になってきます。

学校における働き方改革の一層の推進も喫緊の課題です。平成三十一年四月から令和二年一月における月四十五時間を超える時間外労働の延べ人数は、小学校で約一万四千人（約二割）、中学校で約

約一万六千人（約四割）であり、依然として厳しい状況にあります。今回の改正給特法では、時間外労働時間を年三百六十時間、月四十五時間を超えないことが定められていますので、あらためて各自がこの時間外労働時間を遵守することが求められています。このためには、今回の事態で授業時間の確保が必要になることも併せて、学校行事等の大幅な見直しや外部人材の活用などの抜本的な業務改善が急務となっています。教職員の意識改革はもとより、保護者や地域の方に理解を求めるなど、校長のマネジメント力が大きく関わってきます。

最後に、三重県小中学校長会は、先の総会（書面決議）で活動方針に提示しましたように、組織力の向上を図り、活動の活性化に努めます。また、創意工夫ある教育課程の編成・実施・評価に努めます。さらに、教職員の資質・能力の向上に努め、安全・安心な学校づくりと教育諸条件整備及び処遇改善のための活動を推進していきます。これらの実現のためには、未曾有の事態を乗り越えて前へ進む会員の英知と情熱が必要です。皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

令和2年度 三重県小中学校長会 役員・監事及び事務局

◇会長（兼小学校部会長）
中瀬 鉄夫 【松阪市・宮前小】
◇副会長（兼小学校副部会長）
田中 寛 【津市・藤水小】
西口 修身 【伊賀市・上野西小】
◇幹事（兼小学校幹事）
小林 一也 【四日市市・浜田小】
中西佐智子 【亀山市・野登小】
加藤 真也 【度会郡・外城田小】

◇副会長（兼中学校部会長）
小林 弘明 【多気郡・多気中】
◇副会長（兼中学校副部会長）
中川 克巳 【津市・東橋内中】
掛橋 敏也 【鳥羽市・加茂中】
◇幹事（兼中学校幹事）
谷岡 伸悟 【桑名市・明正中】
篠木 素道 【名張市・赤目中】
上ノ坊 淳 【北牟婁郡・三船中】

◇監事
横打 幸也 【多気郡・勢和小】
井上 征樹 【員弁郡・東員第二中】

《事務局》
◇局長 森田 正美
◇次長 深見 充弘
◇局員 宮田 典子

委 員 会 活 動

学校経営委員会

委員長 古谷 正和



学校経営委員会は、各郡市校長会から提出された「小中学校教育の充実発展に関する施策並びに予算要望」を集約し、九月に県教育委員会事務局の各担当課とそれらの内容について協議を行います。

五月十八日、第一回学校経営委員会を開催し、昨年度の活動の成果と課題をもとに、本年度の活動方針等について協議しました。本年度の活動方針は以下のとおりです。

〈活動方針〉

- (1)各郡市校長会を通して、県内全小中学校長から県教育委員会の施策や予算等に関する意見を集約します。また、要望の焦点化に努め「重点項目」を設定します。
- (2)集約した意見を「要望書」「解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校教育の充実発展に資するよう要望活動を行います。
- (3)昨年度の要望活動を踏まえ、子ども・保護者・地域・教職員の具体的な事例に基づいて要望活

動を行います。

- (4)取りまとめについては、昨年度までの確認事項を尊重しつつ、要望書の信頼性を高めるように努めます。

昨年度もこの委員会に所属し、一委員として活動させていただきました。本年度は委員長という大役をいただき、校長としての立場で施策や予算について県教委と協議する場をもつという重要性和その責任の重さをひしひしと感じています。特に本年度に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長期の臨時休業が行われたことを筆頭に、学校再開後も新たな生活様式を模索しながらの教育活動が展開されているところです。学校現場で日々感じている課題の解決に向けて一歩でも前進することができるよう努めていきたいと考えています。

会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

進路指導委員会

委員長 森 憲治



五月十五日に第一回進路指導委員会を開催し、委員長・副委員長の選出、県教委所管事項、活動方針等の検討を行いました。

昨年同様の活動方針・活動内容を継承するとともに、本年度は、臨時休業等の影響による不安を、生徒・保護者が抱くことなく安心して進路に向かう事ができるよう方針を追加する事としました。

県教委所管事項においても、臨時休業等による影響をどのように解決していくのかの質問が数多く出されました。質問は多岐に渡り、現時点では明確な回答が得られる状況ではありませんでした。本年度は、例年の活動に加え、感染症関係の協議や取組が増加する事が予想されます。答えがない事項が多だけに、校長会としても要望だけではなく積極的な提案も必要になってくると考えています。

正式には次回、委員会で決定しますが、以下に原案を提示します。

〈活動方針〉

- (1)児童生徒の理解を深め、個性の伸長を図り、自己表現を目指す進路指導を推進します。
- (2)県内各小中学校間の情報交換に努めます。
- (3)三重県教育委員会・三重県立学校長会・三重県私学協会等の関係諸機関と協議し、現行入学選抜の課題や入学選抜制度、高校活性化問題の改善に努めます。
- (4)キャリア教育についての研修に努めます。

令和2年度 三重県小中学校長会 郡市会長・理事一覧

No.	郡市名	小中会長		小 会 員 数 (346)	小学校				中 会 員 数 (147)	中学校			
					会 長		理 事			会 長		理 事	
		名 前	所属校		名 前	所属校	名 前	所属校		名 前	所属校	名 前	所属校
1	桑名市・桑名郡	白木 俊行	七和小	28	石崎 裕二	大成小	諸戸 美香	城南小	10	野呂はるみ	光風中	喜多 宣充	成徳中
2	いなべ市・員弁郡	山下 秀人	山郷小	17	伊藤 国男	員弁東小	川崎 誠	十社小	6	服部 健	大安中	伊藤 弘樹	藤原中
3	四日市市	小・中別組織		37	市川 清博	常磐西小	山鋪 清尚	河原田小	22	山下 博	三滝中	寺脇 法夫	三重平中
4	三重郡	加藤 剛	川越南小	8	加藤 剛	川越南小	門脇 秀源	朝上小	4	渡部 克博	菰野中	坂口喜久夫	朝日中
5	鈴鹿市	山田 純生	創徳中	30	谷口 浩二	合川小	宮崎 哲郎	牧田小	10	米川 寿美	鈴峰中	西村 茂也	大木中
6	亀山市	服部 鋼一	関小	11	服部 鋼一	関小	伊達 弘	亀山東小	3	徳田 浩一	中部中	西 秀人	亀山中
7	津 市	伊庭 正彦	一身田小	50	今田 禎浩	明合小	古谷 正和	成美小	20	和田 弘	久居西中	花岡みどり	橋北中
8	松阪市	前嶌 敏文	射和小	36	前嶌 敏文	射和小	野田 幸範	粥見小	11	山本 嘉	殿町中	平野 修	大江中
9	多気郡	久保田博行	外城田小	15	久保田博行	外城田小	千原 吉浩	明星小	5	大西 伸	明和中	武田 善之	大台中
10	伊勢市	樋口 佳洋	佐八小	23	樋口 佳洋	佐八小	服部 朱美	上野小	10	橘 泰平	御園中	平本 秀次	五十鈴中
11	度会郡	小倉 桂吾	錦小	12	小中会長のみ		福井 清	南島西小	6	小中会長のみ		濱口 誠	大紀中
12	鳥羽市	倉田 正義	加茂小	7	倉田 正義	加茂小	齋藤 隆彦	菅島小	5	東 和彦	鳥羽東中	小西 正修	長岡中
13	志摩市	下村 俊之	磯部中	7	坂下 吏	東海小	竹内 靖	神明小	6	下村 俊之	磯部中	山口 泰弘	東海中
14	伊賀市	中浦 基之	青山小	20	中浦 基之	青山小	五軒矢信一	島ヶ原小	10	宮崎 永合	阿山中	吉村 育紀	大山田中
15	名張市	鳩山 太志	桔梗が丘小	14	鳩山 太志	桔梗が丘小	赤塚 弘憲	梅が丘小	5	西山 尚吾	桔梗が丘中	中森 早苗	名張中
16	尾鷲市	西 恵美子	宮之上小	5	西 恵美子	宮之上小	大川 新	賀田小	6	西 宏昌	尾鷲中	奥田 秀紀	潮南中
17	北牟婁郡	東 真人	矢口小	9	東 真人	矢口小	森 能生	海野小					
18	熊野市	小・中別組織		8	榎本 雅夫	飛鳥小	堀 譲介	入鹿小	8	竹原 巧	矢渕中	立嶋 信雄	御浜中
19	南牟婁郡	竹原 巧	矢渕中	9	岩本 直樹	相野谷小	矢賀睦都恵	御浜小					

(5)新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業等の影響により生徒・保護者が不安を感じることなく進路に向かえるよう関係機関に聞き取り・要望・提案を行っていきます。

生徒指導委員会

委員長 西 秀 人



学校が再開され、子どもたちの元気な声が戻ってきました。表面的には明るく振舞っていても、実際には多くのストレスや悩みを抱え、誰にも言えず心の中でつらい思いを閉じ込めている子どもが多くいるはずです。より一層、高くアンテナを張り巡らせ、子どもたちの対応にあたる必要があります。どの学校においても重要な課題である、いじめや不登校、虐待、ネットモラルの問題は、本格的な学校再開とともに、真っ先に、このような子どもたちに表面化してくると思われれます。

そのため、学校の連携を広く太いものにする必要があります。他の分野の専門家との連携を効果的にすすめるためにも、教育の専門家としての力量を高めることが大切です。互いの専門性を尊重尊敬

しつつ、SCやSSWの活用を通じて実践を重ね校内体制の充実を図る必要があると思います。

生徒指導委員会は、次の活動方針・計画を策定しました。校長先生方のご協力をお願いします。

〈活動方針〉

(1)生徒指導等の諸課題の解決に向けた取組と支援の在り方を追求します。

(2)地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安全安心な学校づくりに努めます。

(3)県内小中学校間の情報交換を行い、県校長会及び各市町校長会にも発信していくような取組を進めます。

〈活動計画〉

(1)生徒指導実践交流会

十一月五日(木)グループ別実践交流の予定。

(2)各校の生徒指導諸課題への取組交流 ※児童虐待等への対応。

特別委員会

委員長 伊 達 弘



「今だからこそ・・・」

世界中に大きな影を落とすこととなった新型コロナウイルス感染症。

保健安全面の危機管理の重要性と一緒に、現代社会の脆弱さを思い知らされました。

先日、身内の世話のため病院に居ましたが、お医者さん・医療スタッフの皆さんは、わが身の感染が心配される中、予防上の工夫をしつつ懸命に働いておられました。職責を超える使命感が伝わってきました。

学校もまた、コロナウイルスと闘っています。子どもたちの安全と学びの成立のために、私たちは、職員の健康安全を担保しながら、その方策を見付けていかねばなりません。以前の学校に、どう戻すかではなく、新たな発想で立ち向かって行かねばなりません。

私の学校でもオンライン授業の配信を始めたたり、学校行事の目的や成果を見直したり、在宅勤務や時差出勤の取組を進めたりしてきました。県内の仲間が工夫を凝らして取り組む感染予防には、今までは無い柔軟で多様な学力保障や働き方改革が実践され、今後の課題や展望が明らかになっているのではないのでしょうか。

本年度、労働時間の上限が規則として定まる中での働き方改革の取組の現状や今後の展望を、新型コロナウイルス感染症予防の取組と併せて調査集約する中で、考察していきたいと考えています。

「今だからこそ考えられたこと」を見過ごすことなく、今後の展望を見出したいと考えます。よろしくご協力ください。

〈活動方針〉

新型コロナウイルス感染予防への取組のなか、「働き方改革」についての課題や有効な取組を整理し、今後の展望を提言します。

〈活動計画〉

(1)アンケートの実施

(2)アンケート結果から、課題成果を整理し、今後の展望を提言する。

広報委員会

委員長 伊 藤 弘 樹



新型コロナウイルス感染拡大が止まらず世界中が大変な状況になっています。

日本でも四月十六日に「緊急事態宣言」が全国に発出されました。令和二年度新学期は、感染拡大防止そして臨時休業というかつてない状況で始まりました。校長先生方におかれましては、子どもたちの命と健康を守ること、休業中の学習内容を確保すること、年間計画の大幅な見直しをすることなど、様々な対応にあたられ、多忙な日々をお過ごしのことと思います。

私たち広報委員会は、そのような校長先生や学校の取組の一助となるよう、県内各地域における様々

な対応や実践、郡市校長会の取組の様子などをお伝えしていきたいと思っています。他地域の情報収集や情報交換の場として、また、三重県小中学校長会の会員相互の繋がりを深めていく場として、お役に立てればと考えております。

〈活動方針〉
(1)会員の声を幅広く掲載するとともに、情報交換や情報収集の場としてお役に立てる紙面づくりに努めます。

(2)広報活動をととして、会員相互の連携意識の更なる向上を図ります。

〈活動計画〉

(1)七月、十二月、三月に会報発行。

(2)編集内容 ◇「私の学校づくり」 ◇「新任校長の声」 ◇「今日の課題の克服に向けて」 ◇「ちょっとしたいい話」 ◇「地区校長会だより」 など。

(3)紙面構成は、八面・カラー印刷。の理事を通じて行う。

(4)会員への執筆依頼は、当該地区原稿内容は、「各地域の臨時休業中・臨時休業後の取組」や「各校授業時数確保(学力保障)の取組」など、今年に特化した内容を含んでいたかと助かります。執筆していただきます校長先生はじめ、皆様のご協力をお願いします。



特別寄稿 子どもたちが豊かな未来を 創っていくために



三重県教育委員会
委員長

教育長 木平 芳定

三重県小中学校校長会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、本県教育、とりわけ小中学校教育の充実・発展に日々ご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

(新型コロナウイルス感染症)

三月二日の一斉臨時休業以降、今日に至るまで、これまでになく対応が必要とされる日々が続いています。

子どもたちの不安を少しでも取り除くため、在宅学習の実施にあたっての創意工夫はもとより、生活リズムの維持、心のケアなど、一人ひとりに寄り添った対応を行っていただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

今後も、子どもたちへの丁寧な観察と見守りを継続していただきますとともに、安全を最優

先としつつ、学びの継続との両立に向けた取組を進めていただきますようお願いいたします。

(三重県教育ビジョン)

三重県では、令和二年度から五年度の四年間を計画期間とする「三重県教育ビジョン 子どもたちが豊かな未来を創っていくために」を策定しました。

策定にあたって、小中学校長の皆さまからは貴重なご意見をいただくとともに、小中学生との意見交換会の開催など格別のご高配を賜りありがとうございました。

教育ビジョンでは、「誰一人取り残さない教育の推進」「子どもたちの豊かな未来を創っていく力の育成」「オール三重」による教育の推進」を、教育施策を進めていく上での三つの柱としています。

激しく変容する社会で、子ど

もたちにこれからの時代に対応できる力を育むためには、学校・行政・家庭・地域等が一体となって社会総がかりで本県の教育の推進に取り組むことが不可欠です。

市町等教育委員会との連携を深め、皆さまや地域の方々のご協力を得ながら、全力で取り組んでまいります。

(学校における働き方改革)

教職員の長時間労働は早急に解決しなくてはならない喫緊の課題です。

本年四月より、各教育委員会が規則等で定めた時間外労働時間の上限が適用され、現場においても、校長先生のリーダーシップの下、勤務時間管理を進めていただいているところです。

さらに、新型コロナウイルス感染症の対応は、オンラインでの授業や会議の実施、在宅勤務や時差出勤等、新たな働き方を加速度的に取り入れる契機となりました。

今後も教職員が子どもたちとしっかりと向き合えるよう、ご尽力いただくようお願いいたします。

(おわりに)

最後になりますが、三重県小中学校長会の益々のご発展と皆様の一層のご活躍を祈念いたします。

令和2年度 研究大会

第57回三重県小学校長教育研究大会

- ◆日時 令和2年7月28日(火)午前：全体会 午後：分科会
- ◆日程 受付 9:15～ 9:40
開会行事 9:45～ 10:20
講演会 10:30～ 12:00
分科会 13:30～ 16:00
まとめ 16:00～ 16:30
- ◆会場 全体会 三重県総合文化センター
男女共同参画センター 多目的ホール
分科会 三重県総合文化センター 内各会場
三重県総合博物館
- ◆研究主題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
一夢の実現に向けて主体的・協働的に学び、共に未来を切り拓こうとする子どもを育む学校経営の推進一
- ◆講演会 講師：学校法人 中国学園 中国学園大学・中国短期大学
入試広報部 入試広報課 主任 山口 舞 様
(2012 ロンドン五輪バレーボール女子日本代表選手、銅メダリスト)
演題：「バレーボールと私」(仮題)

第57回三重県中学校長研究大会

- ◆日時 令和2年8月25日(火) 午前：全体会 午後：分科会
- ◆日程 受付 9:30～ 9:50
開会行事 10:00～ 10:20
記念講演 10:30～ 11:50
分科会・まとめ 13:00～ 16:00
- ◆会場 全体会 三重県総合文化センター 多目的ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場
- ◆研究主題 「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく人を育てる中学校教育」
- ◆講演会 講師：三重県総合博物館 館長 大野 照文 様
演題：「ヒトの脳の進化から考える教育のあり方」(仮題)

小学校・中学校研究大会とも、諸事情により大会を中止し、誌上発表に代えます。

新任校長の声

命と健康を守るために

松阪市立幸小学校
校長 菊森 実成



臨時休業が明け、やっと始まった学校生活。四月六日、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。松坂城跡公園南隣りに位置する松阪市立幸小学校の新任校長として赴任しました。始業式では子どもたちへ、「新型コロナウイルス感染症防止のため制限が加わることもあります。自分の命を大切にして、友達や家族、地域の人の命を守るために、皆で協力して楽しい学校にしてください。」と例年にない話も伝えました。

たちの楽しい姿は、再び学校で見られなくなりました。子どもがいらない学校はとても寂しく感じます。感染状況拡大のため、四月予定の登校日や家庭訪問の中止の判断をしました。子どもたちと教職員の健康を守るために、校長として早急に判断をする責任をひしひしと感じました。臨時休業延長のため、「今は、命と健康を守ることが最優先、臨時休業中でも家庭で生活のリズムを整え学習課題をがんばること、三密を避けて健康に気をつけること」等を学校により、ホームページ、メール等で子どもたちや保護者に向けて伝え、子どもたちのために何ができるのかを教職員と力を合わせて考えています。また、家庭訪問や電話等での対応を進め、子どもたちや保護者の生活や学習等の不安解消に向けて取り組んでいるところです。

五月十八日現在、国民の自粛により感染回避に向かい、国は、三重県の緊急事態宣言も解除し、県・市の方針を受けて分散登校で学校が再開しました。校長として、今後も予断を許さないと考えるため、教育委員会の方針を踏まえ、迅速な対応をしていきたいと思っています。

命と健康を守るとともに、一日も早く、全校児童四百五十三人が全員揃って楽しい学校生活を取り戻して、学校教育目標の「楽しい学校 かがやく子ども」の達成に向けて教職員がチーム力を発揮し、一丸となって教育活動を進めていけるようにリードしていきたいです。

校長として歩み始めて

玉城町立有田小学校
校長 田中 基之



懐かしい有田小学校に八年ぶりに校長として赴任しました。当時の保護者や教える子がたくさん声をかけてくださった温かい地域です。

折しも新型コロナウイルス感染症防止対策に追われる時期。校長として求められる判断や責任について考えさせられました。学校生活での配慮や、臨時休業中にできる取組について、自ずと共通理解の場が度々必要となりました。いつも以上に、私たちの教育活動の一つ一つの意味・

意義について問い直す機会となりました。全教職員で短時間で迅速に情報共有し、協議したいことがあれば、誰ともなくスタンディングミーティングを呼びかけて輪になります。有田小ではエースだけが目立つのではなく、一人一人が持ち場で主体的に動くことができるチームが育っています。

学校教育目標は「わたしが創るよりよい学校 一人になれる（自立） 一つになれる（共生）」です。教職員にも全校児童にも浸透しています。年度始め、本校の実態について語り合い、進むべき方向を共通理解して、重点目標、行動目標も描き直しました。日々の授業や学校生活で、全教職員が子どもたちとともに、目標に立ち返っています。また、保護者や地域とも目標を共有し、連携して子どもを育てていきます。

私は校長として、サブリーダーシップ（支援型リーダーシップ）に努めます。学校教育目標を達成すべく、対話を重視し、教職員のよさや心砕いていることを把握し認めながら、本人が力を発揮できるように適切に助言したり、教職員同士をつないだりして支援しています。本校の職場風土は、人事異動こそあれ、歴代校長が積み上げて築いてくださったものです。ここ度会郡では、校長が常に子

ども視点で考え、教職員育成や職場づくりも大切にする伝統が受け継がれています。私も諸先輩方に負けず、子どもと教職員を幸せにできるような継続的に力を注いでいく所存です。

困難から気付けられたこと

鈴鹿市立天栄中学校
校長 須藤 雅哉



三月二十六日に、企画委員会への出席と前任校長との引き継ぎのために、天栄中学校を訪れた。眼下に田園風景が広がる本校は、普段でも静かな環境であるが、三月二日から始まった新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業、部活動中止が続いていたため、時折聞こえてくる鶯の鳴き声が静けさをより一層際立たせていた。

重圧を感じながらも、打ち合わせなどは順調に終了した。しかし、何か物足りない。春休みのこの時期、グラウンドや体育館で部活動に励んでいる子どもたちの姿がない。早く子どもたちに会いたいという思いが募る。

そんな矢先、鈴鹿市では始業式、入学式を一週間延期するとの連絡が入った。前代未聞の事態が続く。こんな時、先輩校長からのアドバイスには本当に助けられた。

またいつ休業日が延長されるか分からない予断を許さない状況が続く中、私はこんな時だからこそ子どもたちに何を伝えるべきか、伝えたいという思いが湧いてきた。始業式と入学式の挨拶を一念に考え、当日に備えた。そんな折も折り、再び臨時休業の延長が決定。子どもに会えるのは三日間。始業式と入学式の挨拶とともに、学校通信二号分を作成し、思いを伝えた。

緊張を強いられた数日ではあったが、職員の協力もあって何とか三日間を乗り切った。

話は変わって、市内校長会の場でこの原稿依頼を受けた。五月二十五日が締め切り。思いを綴る文章を書くことは苦手ではないので、子どもたちが七日に登校してくれば、その姿を通して筆も進むだろうと高をくくっていた。その様な中、また臨時休業延長が決定した。ある程度予想はしていたが困った。子どもたちが学校にこない。頭をひねりやっとの思いで書き上げたこの原稿。教師とは子どもあつてこそその職業であると改めて気付かされた。



将棋ボーイズ

伊賀市立大山田小学校
校長 薬田 マリ子



初任からずっと小学校勤務だった私が、昨年度まで二年間中学校で勤めさせていただいた。

昼休みになると我先にと校庭に飛び出していく小学生とは違い、中学生は教室でしゃべっていたり勉強していたり、図書室で本を読んでいたりと、まったく違った時間が流れていた。

ある日、図書室に行くと一人の生徒が「将棋入門」を手にとって「将棋できるの?」と、声をかけると「小学校で将棋クラブでした。」との返事。そこで、生徒指導担当に昼休みの過ごし方について教えるを請い、将棋盤を囲んでも大丈夫との確約を取り付けた。早速、天童市(山形県)に行ったときに買って来た盤と駒を持参し、「昼休み早指し棋戦」が始まった。

最初は二名だった生徒が一人増え二人増え、多いときには参

観者も含めて七名ほどが集うようになった。常時参加していたのは三〜四名だったので、もう一組盤と駒を持ち込んで臨時将棋クラブができあがった。最初は王様を囲うこともせずに攻めていた生徒たちもだんだんと戦法や囲いを覚え、たまに敗れることもあった。気になったのは定期テストの休みが明けた後、急に強くなった子がいたことだ。

「まさか、テスト勉強もせずに将棋の練習してたんじゃないよね。」と尋ねると、「へっへ。」と、ごまかされた。でも、指しながら最近の部活動や友だちとのことと家での生活などボロボロと漏れてくる話に耳を澄ましながらいきなり成長していく子どもたちの姿を見られるのは幸せなひとときであった。

そのうち、スクールカウンセラーの先生も顔を出してくださるようになり、「この方がまた、たいへん強い」将棋を教えながら子どもたちの様子を観察してくれるようになった。不登校気味の子がカウンセリングを受けて迎えを待つ間に校長室で一局囲んだり、生徒との距離を縮めてくれた将棋に感謝である。

幸い、同じ校区の小学校に転勤したこともあり、小学校の将棋クラブをどんどん盛り上げて中学校の将棋クラブ(非公式)の隆盛に一役買いたいと願っている私であった。

感謝の気持ち

大台町立大台中学校
校長 武田 善之



今年二月の朝のことです。

「今朝、信号機のない交差点で中学生が横断待ちをしていたので、停車して渡らせてあげた。すっかりと礼をしてくれ、その姿にとっても清々しい思いだった。そして、大変気持ち良く職場へ向かうことができた」という電話がありました。本校の中学生の行動が、地域の人たちに感謝の気持ちを湧き起こしたということを知りて嬉しく思いました。運転手さんが、わざわざ学校へ電話をかけてくれるほど、清々しい気持ちになったのは、朝の忙しい通勤時間の中で、子どもが道路を渡ろうとしていたので、譲る気持ちから車を止め、その自分の行動に対して、子どもたちが深々とお辞儀をしてお礼をしてもらったという感謝の気持ちを感じたからだと思えます。

子どもたちも、運転手さんが止まってくれた行動に対して、自然と頭を下げたことだと思います。

今回のことは、譲り合いの気持ちと感謝の気持ちが重なったと思えました。

また、「感謝」の気持ちですが、感謝された人を感動させることがあることがよくわかりました。

そこで、「感謝」の気持ちについて、次のように考えました。他人の行いを見ていて感動したとき、あるいはしてもらったことに対して感謝の念をもつていきます。今日の社会にあつて、こうした自ら頭を下げるような場面は少なくなっているでしょうが、その無意識の行動を支えているものが、「感謝」の気持ちであると思います。そして、いつの時代にあつても忘れてはいけないものです。

やって当たり前、してもらって当然という価値の中からは感謝の気持ちは生まれてきません。今後、子どもたちが「感謝」の気持ちをもち続けていくために、我々大人は、こうした感謝であるとかいつの時代にあつても変わらない「人としての生き方」を語っていく必要があります。



地区校長会だより

尾鷲市小学校長会

五人で頑張ってます！

新鮮な魚、ヒノキ、熊野古道。他の地域の人々の尾鷲に対するイメージは、このようなものではないでしょうか。これらは、厳しい自然環境に立ち向かい、折り合いをつけながら生きてきた尾鷲市民の営みの象徴であり宝物でもあります。尾鷲市の教育大綱ではその基本指針として「尾鷲で育ち、尾鷲で学び、尾鷲を愛する人々尾鷲人（びと）づくり」を掲げており、市内の各学校の子どもたちは、それぞれの地域に適したふるさと学習を進めることで、「尾鷲を学び」続けています。

平成三十年度末に二つの小学校が休校となり、現在市内の小学校は僅か五校となりました。したがって市小学校長会のメンバーは五人であり、それぞれがいくつもの担当を抱え、常にいっぱいになった頭の中を整理しながら会の運営に当たっています。しかし、少人数のよさも感じます。たとえば、定例会ではそれぞれの学校の状況、各校長の思いや願い等をじっくりと話し合うことができます。そうす

ることで、課題、方策、展望等を共有することができ、やる気と元気を手に入れることができます。そして、何といっても、緊急の場合にも速やかに対応できます。今後も情報交換を大切にしなが、フットワークの軽さをいかして、尾鷲の子どもたちの学びの充実と幸福の実現をめざして取組を進めたいと思っています。



伊勢市中学校長会

現伊勢市は、平成の大合併で、伊勢市、二見町、御園村、小俣町の四市町村が一つになって平成十七年十一月一日にスタートし、現在に至っています。

特色ある四つの自治体が一つになることは単なる足し算ではなく、大きな相乗効果を生み、市民にとっても児童生徒にとっても計り知れないプラス効果を生み出していることを多くの分野で見ることが出来ます。

その一つとして、子どもたちは児童生徒数、学校数の増加により切磋琢磨する機会が増え、様々な交流がスムーズに行われるようになっていきます。

中学校においては、合併時十二校（倉田山・厚生・宮川・港・豊浜・北浜・沼木・城田・五十鈴・二見・小俣・御園）ありましたが、適正規模適正配置化の方針から現在は統廃合が進み、十校（宮川・沼木・伊勢宮川、北浜・豊浜・桜浜）となっています。これも、在校する生徒の教育効果を高めるプラス面を考慮し進められています。

中学校長会では、伊勢市小学校教育方針の「心豊かでたくましい子ども」「子どもががやがや学び合う学校」に沿った学校経営を進めるため、課題や方向性について情報交換を頻繁に行



っています。また、連携し歩調を合わせていくため、随時自主校長会を開催するなど大変機動力ある組織だと自負しています。

新型コロナウイルス感染症による臨時休校措置が解除された後の学校運営について、校長は様々な判断を迫られています。そんな時、課題を情報共有しながら難題を解決していく校長会の存在がありがたいと再認識しています（各地区校長会も同じだと思います）。全員が一堂に会して集まる機会がないため、オンライン会議となっていますが、収束し、終息した時には、集まってじっくり話し合いたいと思っています。

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校が臨時休業になり、その間、学校現場では、家庭学習の課題の準備や配付、これまでの課題の回収や評価、学校再開に向けての準備等、あわただしく取組をすすめられたこととお察しいたします。

今まで当たり前だったことができなくなった今、学校も子どもと教職員の命と健康を守るため、そして子どもたちの学びの保障や居場所の確保のため、学校運営のあり方、学校生活様式を見直していくことが必要であると考えます。

本年度は、広報「校長会みえ」を年三回発行させていただきましたが、広報委員会では、昨年度アンケートを実施し、働き方改革の視点から負担軽減のため、来年度から発行回数を二回に減らすこととしました。

今回、学校が臨時休業で各方面への対応が求められている中、第五十五号の発行にあたり、原稿の執筆依頼を快くお引き受けいただいた皆様方に、心より感謝申し上げます。

今後の教育の動向を踏まえてよりよい情報提供に努めるとともに、会員相互の情報交換や校長会組織の充実・発展に役立つ紙面づくりを目指してまいりますので、ご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。